

飛鳥

2021年

春待号

第 203 号

かわら版

ASUKA KAWARABAN

発行所

飛鳥出版室

発行人 永野 正将

〒780-0945 高知市本宮町65-6

電話 088-850-0588

e-mail:info@asuka-net.jp

http://www.asuka-net.jp



高知県室戸市室戸岬漁港 1977年(昭和52年)

島 総一郎 写真集『黒潮の海岸』より

今冬は気温のアップダウンが激しいなか、風邪だけはひかない、
 ましてやコロナに感染などもっての外とばかり、社内一同、神経をとがらせてきました。
 一日も早く、いつもの暮らしが戻りますように！
 春はすぐそこ、芽吹きを用意をしています。

出版物紹介「黒潮の海岸」……島 総一郎	2～3
おのころじま奮染記 21 ……田島征彦	4
キルギスタンからコンニチハ ㊦ ……氏原名美	5
新聞余話⑬ ……大澤重人	6
いろいろかいる ㊦ ……安藝真一	7

出版物紹介 ……	8
お手軽に書籍を作りませんか？ ……	9
印刷屋さんの「すったもんだ」 ……永野正将	10
わが家の太郎 ㊦ ……永野雅子	10

「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援します。

出版物紹介

島 総一郎写真集『黒潮の海岸』

南四国の海辺の光景

— レンズを向けた長い年月 —

島 総一郎

四国の南岸はそっくり太平洋の青い海原に面している。その海沿いは黒潮の匂いがいっぱい。室戸岬から足摺岬まで長く弧を描く土佐湾沿岸のみならず、南阿波と呼



高知県香南市夜須町住吉漁港 1972年(昭和47年)

ばれる徳島県の南部から、南予と呼ばれる愛媛県の南部まで、黒潮の恵みを受けている。したがって、私の撮影地は南阿波の蒲田岬から南予の由良半島までに及んだ。何といっても晴れわたった日が、魅力のある風景を見せてくれる。南国といわれる土地だけに、春先から陽光が増してゆき、真夏には日向と陰が目覚めるほどのコントラストを見せてくれる。そんな目を引く風景が空気の澄む秋にまでつづく。

この長い海岸線をたどると、自然の景観もさることながら、入江のある場所などには、防波堤で囲まれた大小の港が造られている。その奥には軒を連ねるように家々の密集した町や集落があり、漁業を主に生活を営む人々が住みついている。

私は、四国の南岸を東へ西へと四半世紀にわたって行き来し、各地の風土やそこに住む素朴な人々の素顔を撮影してきた。くつきりとした映像が撮れるよう、もっぱら晴れ渡った日を選んで出かけた。撮影地の付近まではマイカーで行き、そこから重いカメラや交換レンズを持って、もっぱら歩いて。長い年月の間には、同じ場所に何度となく足を踏み入れたものだ。小さな漁港や集落の佇まいを始め、働き盛りの漁師や老人や子供たちなど、心ひかれる被写体に出会うと、夢中でレンズを向けてきた。

写真集に掲載した写真は、いちばん古いものは昭和四十一年に撮影しており、新しいものでも平成四年に撮影している。今にして思えば、すべて遠ざかった過去の光景が映し出されており、どの写真も在りし日の懐かしい映像となっている。

具体的な撮影地はどこなのか、そこはどんなところなのか、写真集に掲載した目次の順を追って、撮影地とその地のあらましを具体的に記しておこう。



高知県室戸市室戸岬漁港 1974年(昭和49年)

●住吉・安芸・加領郷
高知市から海際を東へ向かうと、ほぼ直線的な海岸がつづくが、それでも、その途中には絶景といえる大山岬や羽根岬があり、手結、住吉、安芸、加領郷など大小の漁港や町や集落が点在する。

●室戸岬周辺
新村の集落には、強風に備えて頑丈な石垣で造られた民家の塀が今も残る。室津港や室戸岬漁港は巨大な漁業基地であり、室戸岬を東へ回っても、高岡・三津・椎名などの漁港が点在する。

●室戸岬周辺
新村の集落には、強風に備えて頑丈な石垣で造られた民家の塀が今も残る。室津港や室戸岬漁港は巨大な漁業基地であり、室戸岬を東へ回っても、高岡・三津・椎名などの漁港が点在する。



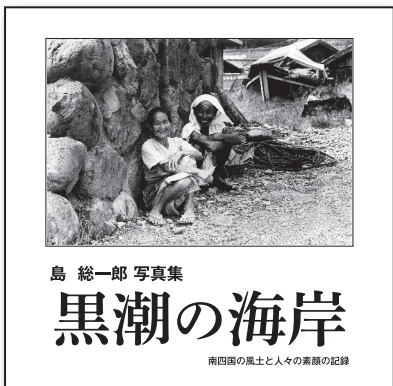
高知県高知市春野町甲殿海岸 1971年(昭和46年)



高知県土佐清水市大浜 1986年(昭和61年)

長い年月をかけて撮影した写真は、三〇、〇〇〇枚を超えているが、著名に記した「黒潮の海岸」がより良く表現で

写真集を出版するにあたって、かつての撮影地を二度ほど再訪してみた。今の姿を見てみたかったからだ。時代の変遷ですっかり変貌したところもあったが、ほとんど変化のない昔のままの場所もあった。いずれにしても、撮影したときの光景を思い浮かべると、感慨もひとしおだった。



B4変型(縦250×横254mm) 上製本/144頁 定価3,300円(税込)

●甲浦・阿南
甲浦は、半島と入江が織り成した変化に富む町で、道沿いの古い家々には、上下二枚の板戸で作られたブッチョウが今も残る。徳島県南部には穴喰浦・木岐・牟岐などの漁港が点在する。
●宇佐・久通・野見
宇佐は、漁業とレジャーの基地であり、久通は、横波半島の太平洋岸の辺境にある半農半漁の集落。野見は、入江で魚類の養殖が行われている。
●久礼
久礼は「国の重要文化的景観」

に選定された漁師町。海岸には大きな漁港が造られており、防潮堤の内側には、狭い路地が縦横に走り、古い民家が密集する。名の知られた大正市には、捕れたばかりの魚が狭い路地に置かれた台の上に並べられ、大勢の買い物客が訪れて日々賑わう。
●足摺半島・柏島周辺
足摺半島には、その周りを巡るように樹木に覆われた心なごむ旧道が残っている。大浜や中浜では、全国的にも名の知られた宗田節の加工が行われている。宿毛湾に沿う柏島、安満地、橘浦、龍ヶ迫は、

観光化されずに鄙びた姿を今に残している。
●西海・由良半島
石垣の里と呼ばれる外泊は、「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれた石垣文化の一大景勝地で、圧倒されるほどの高い頑丈な石垣が多数今に残る。宇和海に長く突き出た由良半島では、真珠づくりを使うアコヤ貝を育てており、その港や集落が長い半島に連なっている。



愛媛県南宇和郡愛南町網代(由良半島) 1973年(昭和48年)

きるよう写真を厳選し、写真集には一二枚を掲載した。
私は、一人のアマチュア写真家に過ぎないし、撮影した写真の出来映えは、むろん素人の域を出るものではないが、写真集に掲載した写真は、曲がりなりにも、それぞれの時代の記録になっていると言えるかもしれない。

おのころじま 大奮闘記

ふんせんき

田島征彦

21. フタゴの猫

2匹一緒に、猫を飼ったことはあるんだけど、兄弟の猫は初めてだった。

娘のかの子が、よく行く馬小舎で生まれた2匹を、淡路島まで連れてきてくれた。茶と白のよくある模様の小猫にタマとユズという名を付けた。胸の白い毛が首の後ろまで続いているのがユズで、頭から背中まで茶色が連なっているのをタマにした。2匹とも似ているから、首を持ち上げないと区別がつかん。見分けが難しい兄弟だ(ヒトのことは言えんが)。

2匹とも、不思議なことに声が出ないからおとなしい。たまに、キャットフード以外の鯉節などをもらうと、ミャーとかわい声を



出す。兄弟仲よく、しじゅうなめ合っているの
で、身体の隅ずみまで清潔できれいな毛なみを
している。美しい猫たちだ。

しかし、一年も経たぬうちに、外からいろん
な生き物をくわえてくるのは困る。もちろん、
今まで飼った猫たちも、トカゲやヤモリ、スズ
メや目白などを捕っては、ぼくらに見せにくる
ことはあった。しかし、この兄弟は、なみはず
れてどう猛だ。

うらの畑を揃ってのし歩いている。マムシを
くわえてきたのには驚いた。家の周囲にはマム
シが多い。ぼくら夫婦で、一年に10匹以上は叩
き殺している。愛犬ボンもマムシを恐がらず、
くわえて振り回して、食べてしまう。もつとも
昨年、夏の終りには、口を噛まれて顔が大きく
腫れ上がった。それでもボンもタマもユズ
も、暖かくなると、マムシ狩りに余念がない。

おかげでこの頃、家の周りのマムシは激減し
たようだ。それは誠にありがたいことだが、し
かし、トカゲやスズメと違って、家の中でマム
シを放してくれると、そこで生活しているぼく
たちは、命懸けで生きていかねばならんだ。

たじま・ゆきひこ(染色家・絵本作家)

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごす。京都市立
美術大学染織図案科専攻科修了。一九七八年『じこくの
そうべえ』で第一回絵本にっぽん賞。二〇一五年『ふし
ぎなともだち』で第二十回日本絵本大賞。沖繩の子ども
たちを主人公にした「やんばるの少年」の次には沖繩戦
を題材に、子どもたちに、戦争のことを、平和の大切さ
を伝える絵本を制作中。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名



リモート授業か対面式か

氏原名美

うじはら・なみ

越知町出身。北海道大学卒。キルギス共和国ビシケク国立大学（旧称ビシケク人文大学）教授。「キルギスタン」はキルギス共和国の通称の一つ。

二月に始まる後期からは学部の授業が対面式に戻される。オンラインと対面を併用する所謂ハイブリッド方式にするのだという。国立高等教育機関に対する教育科学省からのお達しだ。以下、同僚教師からの情報も交えた「キルギス大学教育事情」をお届けする。

新しい時間割を見ると、一年生と四年生の授業は月水金が対面で火木がオンライン、二年生と三年

生はその逆、となっている。教科や履修者数によって対面とリモートを組み合わせるのでも、感染拡大を防ぐため教室ごとに収容定員を設けるのでもない。「学生は毎日半分しか来ないから大丈夫」と言う。いや、減るのは対面授業の回数であって、クラスの学生数が半分になるわけではない。大学には空調設備がない。そう言うのと、「人数が多いクラスは教室の窓を開けておきなさい」との指示。がこの季節、外気温は零下一〇度を下回る。

「一人でも感染確認されたらすぐに対面授業はやめるから心配ない」と、学部教務主任は当たって砕けるの突撃態勢だ。大規模なクラスターが生じたらリモート授業どころではなくなる、とは考えないらしい。

教育科学省が急いで大学授業を対面式に戻そうとしたのはなぜか、理由をいくつか考えてみた。

コロナが猛威を振るっている英米でも日本でも、ハイブリッド方式でうまくやっていると聞かないか、うちだって、というのが一つ。教師がオンライン授業に梃子摺っているから、というのが一つ。自

宅にはインターネット回線どころかコンピュータがない、ワイファイもスマホもチャージするお金がない、ネット接続がうまくいかないし繋がってもすぐ切れる、ビデオ会議システムが使いこなせない。特に年配の教師は困っているようだ。実際、システムに不慣れなせいか、休講続きの教師が少なくない。文献を棒読みするだけの授業はオンラインだとつまらなさか際立つ。「授業料を返せ！」と抗議のシュプレヒコールが聞こえてきそうだ。もしかして、学生のデモ封じが当局の本音かもしれない。

昨年十月、議会選挙の不正疑惑をめぐる野党の抗議運動が大規模な反政府運動に発展し、群衆が大統領府に乱入する騒ぎとなった。結果、大統領は辞任、現職大統領が抗議運動で権力の座から引きずりおろされたのは、これで三度目だ。「我慢しきれなくなったら民衆蜂起で問題解決するのがキルギスの伝統だ」と外国マスメディアに揶揄されるが、キルギス国民自身もあえて否定はしない。発足したばかりの新政権にしてみれば、「伝統」が継承されるのが心配なのだろう。だから、「リモート授業にして十か月、これ以上学生を

目の届かないところに放ってはおけない。抗議行動でも起こされたら大ごとだ。さっさと呼び戻して大学の監視下に置きけ！」というわけだ。

学生は、九割がリモート授業継続を希望しているようだ。オンラインならどこでも受講できる。コロナ禍で家族が仕事を失った。家計を助けるためにアルバイトがしたい、せめてバイト先を探して回る時間が欲しいのだ。オンライン、それもオンデマンド受講でも単位が取れたらいいのに。学生グループの中には、連名で政府にリモート授業の継続と授業料減免を求めるとも始まっている。

「生中継」が苦手な教師にはオンデマンドを認めるとか、対面式授業をライブ配信して教室でもリモートでも受講できるようにするとか、大学、教師、学生の三者でもっと効果的な方法を検討するべきではないか。号令に唯々諾々と従ってばかりだと、また「伝統的手段」に訴えることになりかねない。

了

自宅に届いた朝日新聞の朝刊を手にして、驚きました。その薄さ、軽さに。見れば、二二ページ。四〇ページを印刷できる輪転機を持ちながら、能力のほぼ半分だったのです。料金は一部一五〇円に変わりありません。新型コロナの第一波、昨春の話です。業界では広告の集稿力が一番高いとされる新聞社がそうなのです。

新聞のページ数は、ニュースの分量よりも、主に広告量に左右されます。数多く取材して多くのページを発行しても、広告収入がないと、紙代もかさみ、採算が取れないのです。広告が多いとページ数が増え、そうでないと薄くなるわけです。

カラーにできるページ数も輪転機の性能で決まっています。五輪や大事件などを除くと、先にカラー面を押さえるのは、記事や写真ではなく、広告です。カラー広告が多いと、一般記事のカラー面が少なくなるわけです。

それほど重要な広告の出稿量がコロナで減っているのです。もつと言くと、広告の質、つまり広告主がどこかも収益に影響します。トヨタやパナソニックなどのトップ企業が理想ですが、期待するよ

大澤 重人

新聞余話 ⑬

コロナ禍の広告事情

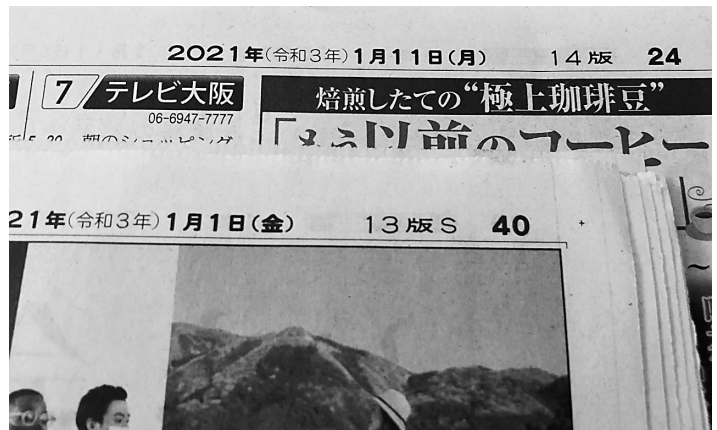


うな広告が集まらないと、単価を落として集稿せざるを得ないので

す。ただでさえ、新聞業界は一年に二七〇万部以上もの部数激減に直面しています。部数が減ると、広告効果が損なわれるため、広告主の出稿意欲も削がれます。

苦境ぶりを数字が裏付けています。昨年一〜九月、広告大手の電通グループの国内の媒体別売上高によると、新聞は前年同期比で二三・一％減と雑誌に次ぐ落ち込みでした。

その結果、朝日新聞は、昨年末に発表した九月中間連結決算で純損益が約四二〇億円もの赤字とな



「40」と「24」。日によってページ数にこんな差が

元日の朝日新聞朝刊(大阪本社発行)はさすがにフルの四〇ページでした。一年で広告出稿量の一番多い日だからです。全面広告が二〇ページと半分を占めます。めくってもめくっても広告。『サザエさん』で言えば、三〇分の放送のうち、一五分がCMなのです。波平さんなら怒り出すでしょう。

「バックもん！」
カラーは、全面広告の一〇ページに対し、記事部分は四ページだけ。増収のためには広告様々ですが、度が過ぎると読者は離れます。

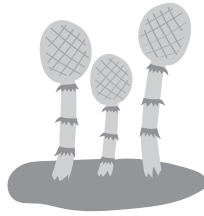
購読紙を題材にしましたが、どこの新聞社も苦しい事情は同じです。一月一〇、一日付の朝日新聞朝刊はともに二四ページ。緊急事態が再び宣言され、紙面からの悲鳴は止みそうにありません。

Ⅱ 渡来人歴史館(大津市) 専門員、元毎日新聞高知支局長。二〇〇号で紹介した秀吉の朝鮮侵略で黒潮町に連行された少女をモチーフにした『咲くや むくげの花』朝鮮少女の想い継いで『仮題』を出版準備中。

り、今春に社長が交代することになりました。高知新聞は昨年末に夕刊を休刊し、「夕刊を維持する経営努力が限界に達した」と報じられました。夕方、新聞受けを見に行く習慣が続いているという声も聞かれます。年が明け、友人の山陽新聞記者から届いた年賀状にはこうありました。「弊紙は昨年11月末で夕刊が休刊になりました」

いろは いろは

その二十九



春は名のみ

安藝眞一

(7) かわら版
正月は、こともなく明けける。過ぎし
ぎし昨年おととしの澱おぼりが、師走のはじめから
日を追って重なり詰み、振り返って見れば、
事もなく過ぎた事もそれなりに穏おだやかであつた日々も
師走の風にあたると、何やらと、まがまがしい顔つきに思い出されて、
澱の色が又一つ重く暗くなる年の暮。そうまでも思いつめなく

てもよかるうに、歳の瀬音をゆく人々は、やがて来る新年の光を待ちかねるように暗い。

元旦の朝の光が立ち昇ると、昨年こぞの、去年の、過ぎゆく年が天の大きな風呂敷ふしに包まれて、ふいと捨てられると、誰もかれも我にかえり、「正月だ」と思い知る。

元日はいつの年も上天気である。現実には元旦が曇り日であつても、雨もよいの朝であつても、皆一様に上天気と思ひ込むのは、新しい年のはじめを祈る心の強さかとも思う。新春三ヶ日。松の内と、名を変え、日を追って朝夕を楽しみ、正月の気分が切れ目なく続くように次の日の朝を待ちうける。七草の粥を炊く日が過ぎると、流石に正月気分とはならないが、季節は正しく冬なのに寒かんを認めようともせず、さりとて春と呼ぶには風もつめたいが、年のはじめの声に押されるように、どこか元旦の日の光を残しながら、やがて、こともなく二月を迎える月の終りと
なる。

小学四年生の正月を過ぎた三学期の朝、冷えた音楽室で先生がピアノを弾く。それが終ると、何故か名を呼ばれて、級友の前に立ち、独唱を命じられた。思わぬ事に心

がふるえたが、歌の名は、「早春賦」、好きな歌だったのでピアノの音に合わせて、心こめてゆつくり歌った記憶が蘇よみがえる。春を待つ谷の鶯の心に寄りそつた美しいことばの歌詩で、いつの日にかおぼえていて、大事にしてきた歌である。「今日も昨日も雪の空」と繰り返されるフレーズは、その前の年、疎開で暮した大豊の山合いの谷を想い出して、曇り空と雪を降らし

て、歌いながら絵を描いていた。特に、二番の「氷解けさり葦は角ぐむ」の唱い出しが好きで短い一節に春のはじめの情景が凝縮された表現におどろいたし「さては時ぞと、思うあやにく」という言葉に、もしや鎌倉あたりの武士の心かと思う云いまわしの奥行おくゆきに心が打たれた。いづれにせよ歌を想う鶯の心とは裏腹に「今日も昨日も雪の空」「今日も昨日も雪の空」と繰り返して、ま、ならぬ季節の裏切りを伝えて歌は終る。晴れ間の見えぬ空、降りしきる雪の山々、谷はしぐれか。

子供のころから幾年過ぎてても、繰り返し思い出して歌う事があるどの時も、独唱で、合唱などの大きな音ではこの歌にならない。それに、この歌は二月にしか歌えな

いと思ひ定めている。正月の気分には入り込める歌ではなく、さりとて三月には季節が遅い。正しくは二月で、それも「氷解け去り葦は」の水辺の朝が必要になる。作詩は誰なのか未だに知らない。言葉の並びからは、明治のころかと思われるが、戦前から、小学唱歌におさめられている筈だと思ふが、短い言葉ながら、古語を自然に流し込んだ絶妙の韻律が春淺き里山の情景を美事に描き出していると思ふ。二月になって、一度、口に出して歌ってみる。何度も歌うことはない。「今日も昨日も雪の空」だから、この雪はしばらく止みそうもない。

街から子供達の声がこのごろ聴こえてこない。三学期は始まっている筈だ。今でも音楽室というのがあるだろうか、子供達は、一度でもこの歌を歌っているだろうか、二月の日にちは短い。

了

あき・しんいち／高知市

出版紹介

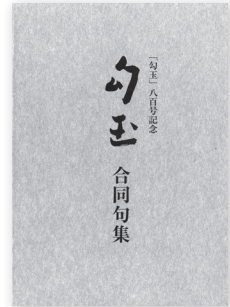
健とアイヌ



文・絵：町田樹生
A4判変形 上製本 48頁
定価：1,200円(税別)

句は自選で、「勾玉」に限定せず自由に出選、顔写真とプロフィールに各自の思いが添えられています。

「勾玉」八百号記念
勾玉
合同句集



A5判 442頁

発行者：橋田憲明
上製本

土佐史つれづれ

土佐史談会会長で、高知の城下町を歩く活動などをしていらっしゃる著者が、コロナ禍の雰囲気や和らげ、明日の郷土を考える糧にと上梓しました。

旧石器時代からの史跡が、土佐40・春野38の短編に纏められています。数多くの写真、中でもドローンにより撮影された空からの写真が理解を助けます。

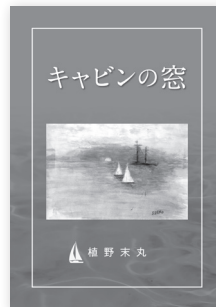


A5判 310頁

著者・発行者：宅間一之
定価：1,500円(税別)

キャビンの窓

幡多郡の小さな漁師町に生まれ、京都の大学を卒業後、地元高知で教鞭をとる傍ら幡多の海で漁師顔負けに魚と戯れてきた父親の、夢とロマン溢れる海洋エッセイを、幼少より父親と海に親しんできたご子息が復刻版として再販しました。



A5判 218頁

著者：植野末丸
発行人：楳浪漫亭
定価：1,500円

短歌と小説、随筆
明日は晴れ



A5判 272頁

著者：藤原義一
定価：1,000円(税別)

著者12冊目の歌集。60歳で退職後の暮らしの中でうたった短歌、書きためた小説・随筆を掲載。高知県立短期大学や県立大学大学院で学んだこと、脳梗塞や心筋梗塞のことなども詠い込まれています。ゆるゆると、お読みいただけます。――「はじめに」より――

「勾玉」八百号記念
勾玉合同句集

昭和二十三年創刊(平成十四年、復刊)の俳誌「勾玉」、通刊八百号(復刊二百七十七号)の記念企画。今、「勾玉」に集っている人たちの記録です。一〇三名に物故者四名の計二、一〇〇句を掲載。掲載



桜子ちゃん誕生

2020年3月、元気に産声をあげたのは、弊社従業員の赤ちゃん、桜子(さくら)ちゃんです。「コロナ禍でなかなか外出もままならない中短時間ではあったけど、かわいい笑顔と元気な泣き声を社内に届けてくれました。この子たちの未来が明るい世の中でありますよ!!!

お手軽に書籍を 作りませんか?

Wordなどのテキストデータ入稿で 簡単で早く!安く!

※特別料金になっておりますので、下記仕様の内容に沿わない場合は別途お見積もりとなりますのでご注意ください。

仕様

- 無線綴じ並製本 (力紙あり/カバーなし)
- 高品質オンデマンド機による印刷
- 表紙:カラー刷り (基本デザインテンプレートより選択)
- 表紙用紙:アートポスト・色上質
- 本文:モノクロ印刷 (基本レイアウト組版あり)
- 本文用紙:クリーム書籍
- テキストデータ入稿 (手書き原稿の場合は別途御見積もり)
- 校正作業は1回
(当社での内校は含まれておりません。2回以上の校正は別途御見積もり)
- 写真挿入可能 (1点につき250円の追加料金/データ入稿)

お手軽書籍 料金表

(小部数限定)

四六判(縦 188mm×横 127mm) / B6判(縦 182mm×横 128mm)

冊数	50冊	100冊	200冊	300冊
50頁	76,000円	85,000円	98,000円	109,800円
100頁	126,000円	137,000円	153,000円	169,000円
150頁	169,500円	182,000円	202,000円	220,000円
200頁	207,500円	222,000円	245,800円	267,000円
250頁	243,000円	259,000円	288,000円	312,000円

A5判(縦 210mm×横 148mm)

冊数	50冊	100冊	200冊	300冊
50頁	80,000円	89,000円	105,200円	118,800円
100頁	135,000円	145,000円	168,000円	186,000円
150頁	182,500円	197,000円	224,000円	247,800円
200頁	225,000円	243,000円	274,000円	304,500円
250頁	265,000円	287,000円	326,000円	357,000円

※表紙や本文の用紙変更やカバーを付けることも出来ます。(別途御見積もり)

※基本的に部数は最低50冊からになります。上記以外の頁数、部数はご相談ください。

サンプル本も準備していますので、是非ご来社いただきご覧ください。



株式会社 飛鳥 / 飛鳥出版室 〒780-0945 高知市本宮町 65-6 【担当:川田】

Tel.088-850-0588 Fax.088-850-0599

印刷屋さんの「すったもんだ」

代表取締役 永野 正将



今回の「すったもんだ」は大変恐縮ですが“私事”を書かせていただきます。
娘3姉妹に囲まれ、家族5人「幸せな人生」を歩んでおりますが、気がつけば長女が今年で高校3年生、大学受験に向けて日々頑張る中「来年には生まれ育った家を出ることになる！」そう考えると、もの凄く感慨深くなってしまいます。次女は中学2年生で反抗期真っ盛り、3女は小学校入学…「そうか、自分も来年は48歳の歳男になるのか！」などと思いを馳せる。
いつまでも若造と思っていたが、すっかり中年男になり、加齢臭はもちろん、最近では高血圧を気にして食品表示の食塩使用量のチェックを欠かせない日々を送っております。
それでも、人生100年時代！ 折り返し前の最盛期と自分に言い聞かせ、これからも全力で走っていきますので、応援の程よろしく願い申し上げます。

わが家の太郎 ⑤

車

永野 雅子

長らく乗った車がトラブル続

きで、とうとう廃車になった。

夫が乗っていたものを引き継いで10年、愛着もあって手放し難

かったが、さすがに故障続きで

はどうにもならず、社長（息子）

に相談すると、

「今、コロナで大変なときに乗

りたい車などと、わがままです。

軽にしてください」

と一蹴されて、軽自動車を買っ

てきた。

乗ってみると色々な装置がつ

いていて、かばんにキーを入れて

いると、ドアに触れただけで

ロックが解除、そのままスイッ

チを押すとエンジンがかかる。

車から降りると、ドアのボタン

を押すとロック。なんと便利な

こと。かばんの中をかき回して

キーを探す必要もなくなった。

ドライブレコーダーとやらもつ

いているし、視界も広い。わく

わくしながら、あれこれためし

てみる。

乗り心地もいいし、スピード

が出過ぎるとちゃんと警告が鳴

る。私にぼつちりかも…。

ある日、夜の会合に出かける

時、息子に運転を頼んだ。太郎

を乗せて友達に会い、帰りに私

を迎えに来るという段取り。目

的に着いて、

「じゃあね。終わったら電話す

るから」

と降りて、彼は友人と待ち合わ

せ場所へ。やがて、息子から電

話。

「車のキーは？」

「エーッ！ 私のかばんの中」

「俺、エンジン切って気がつい

た。車、動かん！」

何ということ、それから後は

ご想像に任せるとして、迷惑を

被ったのは太郎。後部座席に置

かれたまま、長時間見向きもさ

れず、どこに居るかもわからず、

餌も水も

ない中で、

それでもワ

ンとも言わ

ず居てくれ

らしい。

家では相変わらず夜中に大

声で鳴いて、私を辟易させて

いるけれど、場を心得ていた

太郎に拍手。

この一件で、便利なものに

は落とし穴があるということ

がよくわかった。これが飛行

場で、キーをかばんに入れた

まま飛び立ってしまったらど

ういうことになるか。

ただでさえ忘れることが多

くなった昨今、キーをどこへ

置か、車から離れるたびに

確認をするようになった。出

来ればスマホのように音声で

知らしてくれる装置はつか

ないのだろうか。

わしわし、疲れたワン!

